
珍しく友達が二次創作「天体観測」

暴走したのを恥ずかしいけど晒す。

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

珍しく友達が二次創作「天体観測」

【Nコード】

N8021N

【作者名】

暴走したのを恥ずかしいけど晒す。

【あらすじ】

河野夜兎さんがBUMPがいいと言っていたので思いつきでやってみた。

一晚掛けただけの駄作。

入院した夜兎さんに捧ぐ。

（前書き）

夜兎さんへ。

入院したと聞いて、BUMPとか言ってたので、懲りずに作ってみました。

長くなるので読まなくても結構です。

他の人へ、

ラフメイカーみたいに崩壊はさせませんから。
信じて下さい！

青い空。

白い雲。

絶好の昼寝日和だ。

・
・
・

あいつの居ない教室は寂しい。

隣の席がぽっかり空いて、心にも穴が空いたみたいだ。

みたいじゃない、空いている。

現に、今、俺は泣いている。

あの時の後悔の気持ちで。

時計を見た、

『A・M・ 2:00』

その時、電車が通った。

カンカンカン

ガタンガタン

「よし。」

待ち合わせの時間には間に合った、
背中に背負った望遠鏡がちょっと邪魔だが、仕方がないだろう。
おまけに、小型ラジオをベルトに結んでいるので荷物がかさばるか
さばる。

そのラジオから天気予報が流れる。

「ザー・・・ 地方の夜は雨も降らず、涼しくなるでしょう。今
日は 座流星群、貴方も流れ星を探してみてはいかが？ さて、
お次は・・・ザー」

よし、天気はオーケーか、
これは失敗するわけにはいかない。

「ごめ〜ん！ 待った？」

そんなテンプレの挨拶と共にあいつがやってきた。
時計は

『A・M・ 2:02』

となっていた。

「はあはあ・・・、これ、持ってくれない？」

「天体観測するには多すぎるだろ・・・。」

「これが最後になるんだからさ、失敗するわけにはいかないでしょ。」

「

「ああ、そうだな」

「ちよつと、そんな顔しないでよ。最後なんだからさ、笑って。」

作り笑いでごまかした。・・・あいつの機嫌はまだ直ってないけど。

「やっと着いた・・・、ふう。」

「男のくせにだらしないな、もう。」

ぱんぱんに張った腕をさすりながら座り込んだ。

「あ、シートあるから。今から出すね。」

と言って、あいつは持ってきたカバンの中をのぞき込んだ。

「それにしても暗いな・・・。」

「ホントにね。」

どこからかあいつの声が帰ってきた。

「もう・・・明日出発なんだな。」

「そんな事言わないでよ、それ抜きで楽しもうって、昨日決めたじやん。」

気付くと俺は歯を食いしばっていた。

「幼なじみなんだろう、相談してくれても良かったじゃんかよ!」

「ごめん・・・。」

そこで俺はやりすぎに気が付いた。

「お、俺こそ言い過ぎた。」

暗がりで見えたあいつの手は、震えてるように見えた。

「じゃあ、気にしないでやろっ」

「始めようか。天体観測」

「流れ星、いっぱい見れると良いね」

思えばあの時、いや、天体観測中ならいつでも、

あいつの手を握ってやることは出来なかったのだろうか。

あいつの手を握って、不安を消し去ってやれなかったのだろうか。

俺のも一緒に。

「おい! 何度言えば分かるんだ!! 起きろ!!!」

前で先生が怒鳴っていた。

「ふわあい・・・。」

そう言ってノートを開き教科書も開き、そしてまた、空を見上げた。

「おい、いつまでそうやって泣いてんだ。もう一ヶ月もそんな生活

してたのか？」

あきれたように同級生が言った。

「ああ。おれはもう……。」

「さっさと学校来い。もう中三、欠席とかも受験に響くぞ。」

ドアの向こうから来る声に、未だ俺は心を動かされていない。

「なあ……、何でお前は学校行つてんだ？」

「高校入るためだよ。」

「じゃあ、何で高校行くんだ？」

「就職するため。お前何が言いたいんだ？」

「就職できて、社長になったとしても、それだけで幸せなのか？」

「お金があればいいのか？」

「いや、恋とかするだろうし、ちゃんと温かい家庭とか、信頼でき

る友達とかも出来るだろうし。」

「無理して学校行つて、心に傷を負ったまま学校行つて、精神崩壊

しながら社長になったって何が幸せなんだ？」

「逆にお前はホームレスで良いのか？」

鬱陶しそうに言った。

「ああ。それでも良い。心が傷つかないところならどこでも。」

「ああそうか。じゃあ学校来るな。」

怒らせてしまったらしい。

いつもこんな事考えてるせいか、後半は自然と口から出た。

もうちょっとマシな追い返し方無かったかな。

ちょっとあいつには悪いことしたかな、と言う罪悪感はある。

証拠に、登校してからずっとあいつとは口をきいていない。

「おい！ また寝てないだろうな。」

また怒鳴り声が聞こえた。

「ねてませーん」

俺は、わがままなだけか。
あいつが好きで、辛い運命があつたとしても好きで、
でも、その運命からは逃げたくって、
逃げそびれてこの有様か。

「・・・ねえ、私たちって、端から見たら恋人じゃない？」
「ライト持ってきてないのか？ 暗くてほとんど分かんないんだが。」

「ねえ、聞いてる？」

「ああ、ライトがなきゃ、他からは全然見えないぞ。」
「もう、遠回しな皮肉はやめて。」

あいつが頬を膨らましたのは暗がりでもも分かる。長年の付き合いの賜だ。

「星が見づらくなるから、ライトはいらないでしょ。」

「ああ、そうだったな。それにしても・・・」

「何？」

「星が綺麗だ。」

「そうだね・・・。」

二人でうつとりしながら言った。

あの時、俺たちは希望を探していたんじゃないか、と思う。
絶望的な状況で、一回現実から逃げて、ゆっくり考え直そう。と思
ってたんだろう。

また現実逃避して、考え直している。
でも、あいつはもう居ない。

もう俺は一人だ。

ベッドの中、ドアの向こうの声が止んだ。

「よし・・・」

そう呟きながら俺は出た。

あれだけうるさいと書ける物も書けない。

机の端を見る、

たまりにたまった便せんの山、中には文字がぎっしり並んでいる。

いずれも、初めは

『お元気ですか？ 僕は元気です。心配事も大してないので大丈夫です、時々、君を思い出す程度です。』

こんな嘘ばかりつづった手紙。ただ一つ、本当に君を思い出しているけど。

「失敗・・・しちゃったね。」

あいつは、ずっと手が震えている。

「まあ、天気が悪いんだ、仕方ないよ。」

雨で見えにくいのが、あいつは泣いている。

「そうだね・・・。」

そう言っであいつは荷物を片付け、帰って行った。

残ったのは嘘ばかり流すラジオと望遠鏡、後はびしょぬれになった俺だった。

どれぐらい経っただろうか。三十分ぐらいか。

くしゃみをして、やっと俺は動き始めた。

あいつの手を握って、不安を和らげることは出来なかったのか。

気の利いた台詞でも言つて、一緒に笑つて帰ることが出来たんじゃないか。

後悔の念と共に、泣き出したい思いが帰ってきた。
ただ、後悔の思いの方が強かった。

「まだ行けるんじゃないか」と、心の中の俺が言う。
望遠鏡を背負い、自転車にまたがり走った。
その時、俺は思った。

あいつを愛するからこそ、俺は強くいられる。

苦しい運命も、あいつが居て、立ち向かう勇気が出てくる。

それが後の俺の支えになるとは思つても居なかったが。

しばらく、部屋から出てない。

ラジオから流れる天気予報を聞いている。

「ザー・・・今度は 座流星群天気が良いので今夜は天体観測でもしてみては?・・・ザー」

嘘つきの天気予報がまた、あの時みたいな放送をする。

でも、気が付くと、あの踏切の前だった。
時計を見ると、

『A・M・ 2:00』

後二分で、あの場所に行くつもりだ。
たいした理由はない。

今だって、二人は愛し合っているんだから。

どんな試練も乗り越えて見せよう。

何があったとしても、僕は強くないくちやならない。

君のために。

長い長い回想だった。

そろそろ授業も終わる頃だろう。

心に穴が空いたって、それでいいんだ。

あいつが戻ってくれば埋まる。

それまで、運命を打ち負かせるぐらい強くなっていればいい。

それで、いいんだ。

俺は、大きく伸びをし、欠伸をしながら考えた。

今日の天体観測のスケジュールを。

（後書き）

夜兔さんへ

入院してるから熟読しないようなつまらない作品を、と思ってつま
らなくしました。

・・・嘘です。かなりの自信作です。

一晚とはいえ、自信作です。

他の人へ

出来れば感想お願いします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8021n/>

珍しく友達が二次創作「天体観測」

2010年10月11日00時07分発行